

【電子版】



2026年 第5号 2026年2月24日

発行：自交総連本部

〒110-0003 東京都台東区根岸2-18-2-201

tel. 03-3875-8071

fax. 03-3874-4997

メール info@jikosoren.jp

ホームページ→



自交総連は1月28日、全労連会館で第48回中央委員会を開催しました。
議事内容をお知らせします（発言はすべて要旨）。

- 委員長あいさつ（1～2ページ）
- 来賓あいさつ（3ページ）
- 一般・総括討論（4～8ページ）
- 執行部答弁（8～10ページ）
- 組織拡大専従オルグ就任あいさつ（10ページ）

委員長あいさつ

みんなで話し合い、行動し、解決

2026年春闘で、まず考えておくべきことは、全国各地でタクシーの運賃改定がはじまっていることです。

各事業者からの「合理化」攻撃と同時に、タクシー会社の倒産・廃業が地方からつぎつぎに起こっています。また仙台で1社会社が潰れたというニュースが飛び込んできました。

現在、バスも含めてタクシー事業自体が国の政策によって壊されていることを踏まえつつ、団体交渉で自交労働者の活路を見出さなければならない状況にあります。こうしたときに、労働組合の真価が問われます。自交総連はきちんと物を言い、声をあげ、たたかう労働組合だと胸を張っていえます。そのために、全国の組合が団結して、一つ一つの問題をみんなで話し合っ、みんなで行動し、みんなで解決していきましょう。

前回の運賃改定後に、関東の会社が営業収入に係数をかけるという「合理化」を、さも当然のようにおこない、裁判になっています。

私は個人的にこの裁判の結果に注目しています。真似をする事業者が出てこないように、裁判闘争のみならず、こんな事業者を許してはならないと宣伝行動で訴えていく必要があると思っています。

明るい話としては、自交総連のなかに個人タクシーの全国部会が立ち上がりました。個人タクシー事業者として各地域に点として存在していた人たちを線にして、その線を面にして闘いを広げていく入り口にやっと立つことができました。個人タクシー事業主は、本来労働者ではないと言われるかもしれ



庭和田委員長

れません。しかし、1990年代に球団オーナーの横暴とたたかったプロ野球選手会を思い出してください。このとき、ファンが選手を応援して選手会の現状を含めた労働環境が大きく変わりました。そして、プロ野球選手会は、労働組合として東京都地方労働委員会によって認められています。

私は個人タクシーも同じだと思っています。個人タクシーを大きく縛るのは、球団オーナーではなく、国の許認可権です。こうした相手には、線ではなく面でたたかわなければ問題の打開はありません。

そして、観光バスもかなり需要回復してきたのですが、高市首相の不用意な発言から中国人観光客が来なくなって仕事量が減っています。そうしたなか、バス業界で考えなければならないのは、ガイド職の仕事の激変です。

我々はガイド職を保安要員とすべきだと考えています。小学生の遠足など大勢の子どもさんを扱うときに、もしトンネルで火災事故等を含めてあった場合、ドライバーと学校の先生だけで対応できると思いますか。

ガイド職は保安要員だということを今後しっかりと位置づけた政策を考えなければ、守れたはずの命も守れなくなります。

タクシー・ハイヤー、観光バス、自動車教習所、そして個人タクシー。問題が多岐にわたりますが、自交総連本部として全国津々浦々、何かあれば、みんなでカバーリングをしながら解決をしていきたいと、強く皆さんに決意と共に表明します。

来賓あいさつ 労働者が誇りを持てる未来へ

全労連・秋山正臣議長

大雪被害の件で、公共交通を守ることが改めて大きな課題だと思いました。どのように人材を確保していくか、もっと公共交通のあり方の全体像をしっかりと議論していくことが必要です。自交総連の交通政策をもとに全労連として社会的に発信をしていきたいと思っています。また、物価上昇を上回るために、全労連は10%以上の賃上げをこの春闘で求めています。同時に最低賃金の引き上げもかちとっていかなければなりません。私たちがめざす全国一律2000円実現のためには、国の中小企業への支援が不可欠です。

全労連は先日の評議員会で、中小企業支援の政策提言案を議論しました。また、フリーランスに対する労災保険団体の設立なども話し合いました。誰もが安心して働き続けられる世の中にしていくことが何よりも重要です。労働組合は要求実現のために、職場で過半数を組織して、社会的な評価をあげていかなければなりません。組織拡大にむけて共にがんばりましょう。



秋山議長

交運共闘・石橋覚副議長

私たちが働く交通運輸産業を取り巻く環境は、かつてない激動にあります。長引く物価高騰や燃料不足、深刻な人員不足はもはや1企業の努力で解決できる範疇を超え、公共交通の維持そのものを危うくしています。政府によるライドシェア導入の動きが加速しており、私たちは強い危機感を抱いています。

安全性を度外視し、労働者の在り方を根本から破壊するような規制緩和は、断じて容認できるものではありません。交通の安全は、熟練した技術と責任感を持つ労働力によって守られるべきであり、安易な参入がもたらす公共交通の質の低下は地域の混乱に他なりません。職種は違えども交運共闘の願いは一つ。労働者の処遇改善であり、それこそが産業の健全な発展に不可欠なことです。自交総連の声は、政府や資本を動かす大きな力になると確信しています。安全を切り捨てる社会を変え、労働者が誇りを持って働き続けられる未来を共にかちとっていきましょう。



石橋副議長

一般・総括討論

RS闘争、運賃改定について発言

① 北海道・石岡香さん

組織拡大についてですが、札幌交通労組では、昨年来から組合員を増やすことができました。

社内には、約80名の未組織の親睦会がありまして、その会長と何回も対話を続け、お互い少しずつ本音を引き出して話し合いを続けました。春闘方針案にも、組織拡大の観点から持続的な宣伝と対話を繰り返すことと書いてあります。このとおり長い時間をかけて話した結果、目的意識が同じであるとお互い気づくことができました。それが、親睦会からの大量加入につながったと私は思っています。人は話してみないとわからないと実感しました。北海道地連では、ライドシェア全面解禁を許さない闘い、政治闘争、組織拡大へむけて組織行動を一層強化していく所存です。



石岡さん

② 東京・中野健治さん

東京地連は、各ブロックで起こった事故や違反、それに対する対応についての報告を、道交法対策委員会に持ち寄り検討し、学習会などで活かしています。直近では、免許証取消しの案件があり、警視庁の聴聞会にあたり1000筆を超える嘆願書を集めることができました。道交法対策委員会としては、まずは未然に事故、違反を防ぐことを念頭に、起きてしまったものに対してはできる限りの対応を取っています。ここ最近増えているこの業界に新たに入ってきた若手ドライバーの不安要素を少しでも解消することや、ベテランドライバーでもいつ起こすか、また起きるかわからない事故や違反に対する予備知識や注意点を伝えることで労働組合への興味関心を持ってもらい、加入促進へつなげています。



中野さん

③ 静岡・松田健一さん

昨年11月に静岡地区はタクシーの運賃改定がおこなわれ、運収が約10%あがりまして。ところが、会社から賃金体系変更の提案を受けました。スライド賃下げです。組合員の大多数はもちろん反対の意見です。経営側は、会社も大変だと言います。しかしその負担を真っ先に現場に押し付けるやり方が

本当に会社を守ることにつながるのでしょうか。がんばっても賃金が下がる業界に未来はありません。運賃改定があるならば、その成果はまず現場で働く乗務員に正當に配分されるべきです。賃下げで帳尻を合わせるやり方は許せません。スライド賃下げは、乗務員の生活を壊すだけでなく、タクシー業界そのものを衰退させる行為です。だからこそ、今年の春闘ではスライド賃下げは断じて許さない姿勢をはっきりと示す必要があります。声をあげなければ黙認したことになります。



松田さん

自分たちの生活を守るために、そして次世代につながるタクシー業界を残すために、この春闘を最後までたたかい抜きましょう。

④ 東京・秋山芳晴さん

私たち個人タクシー事業者は、会社ではないので、個々の意見を吸いあげてもらえることはありません。羽田空港の白タク・都市型ハイヤーの件で、初めて意見を取りあげていただき、国に立ち上がったもらえました。



秋山さん

これも1事業者の小さな声を拾ってくれた自交総連があったからです。それで私たちも動くことができ、それが国会議員を動かし、その結果として東タク協をも動かしました。国に要求を通すには、やはり組織の力が必要です。先ほど委員長からお話があったように、個人タクシー部会が立ちあがりました。個人タクシーが点から面になる土壌を作っていたいただいたことを深く皆さんに感謝いたします。私たちは個タク部会として先兵になってストライキを打つこともできますので、これから点から面になるために、ご協力をお願いします。

⑤ 福岡・安武博子さん

福岡地連の組織拡大について、吉野ヶ里観光タクシー分会が特徴的な闘いをしています。不当解雇の争議闘争で職場復帰をかちとり、昨年12月から現場復帰を果たしました。それ以降、分会には組合員が増加しており、過半数をめざして拡大行動をさらに強化しています。また今春闘の方針で、本部に組織拡大専従オルグとして福岡地連の内田書記長を配置



安武さん

することが提案されています。内田は全労連組織拡大総ががり行動で1年間

で100人の加入を促進し、大きな実増をした経験もあるので、期待して送り出したいと思っています。自交総連全体が活性化するために全国どこへでも内田を走らせますので、ぜひお声掛けをしていただければと思います。

自交総連が3万人回復の大きな一歩となる春闘になるためにも、福岡が先陣を切って大幅な拡大で10月の大会に報告ができるようたたくかいます。

⑥ 長崎・松永利秋さん

私は一人でも労基署や陸運局にいろいろなことを報告したり、聞いたりしています。昔と違って最近の自交総連は、各地域の運輸局等に団体や少人数でも行くことが少なくなっています。そうやって要請に行くことで、自交総連が来たということが地方から霞ヶ関の本省に伝わると思います。そうすれば、3月5日の国交省交渉のときに、運賃改定の件で少しでも従来と違った回答が出てくるんじゃないでしょうか。ですから、自交総連の本部が、各地連・地本の皆さんに、各運輸局へ交渉に行くように呼びかけてもらいたいと思います。



松永さん

⑦ 鹿児島・杉原良二さん

鹿児島でも、バスの撤退が多く出ており、ライドシェアをする業者が出てきました。地域によっては、タクシーが夜12時で運行ストップしてしまうのですが、ライドシェアを使って、深夜のお客さんを送り迎えする動きがあります。また、タクシーの運送収入が上がってきているなかで、ボーナスの支給をやめて月収をアップさせた会社があります。その内、勤務評価を査定し、2万円を支給する項目が設けられ、ドライブレコーダーを見られて勤務態度や接客サービスをチェックされています。乗務員から不満や批判の声があがっています。今後、差支えが出ないか危惧しています。



杉原さん

⑧ 東北・齋藤哲也さん

東北地連は25年秋闘で、統一要求の実現をめざし、団体交渉や東北運輸局交渉などのとりくみを強めました。団交ではノースライドを、交渉では改定の趣旨を確認しており、来たるべき運賃改定時には、多くのタクシー労働者

を巻き込んでの闘いを広げていきます。

さらに今春闘では、組織拡大に全力でとりくみます。自交総連の空白県である岩手県や青森県での宣伝オルグ行動を実施し、職場内での組織拡大も重視したいと考えています。そのためには、すべての労働者に対して改めて対話を行い、要求を聞いていく必要があります。また、東北からまた1社、タクシー会社の破産するというニュースが入ってきました。宮城交通です。仙台のタクシー会社もだいぶ厳しく、国分町では最近是非常に人が少なく、夜の売上が激減しています。この先どうなるか予断を許さない状況になっています。



齋藤さん

⑨ 東京・坪倉秀樹さん

東京地連は国交省、東タク協、世論に対して、日本にはあらゆるライドシェアは必要ないの訴えを広め、解禁協議をおこなう内閣府主導の委員会に参加する委員らのもとに出向き、宣伝行動を実施しました。また、首都ターミナル駅で実施する未組織宣伝行動でも、利用者にライドシェアの危険性と公共交通機関の存在によって日常的な移動権が確保されている重要性を訴えてきました。



坪倉さん

宣伝カーから音声を流しながら市中を走り、世論にアピールする行動もおこないました。これら職場から外に出て抗議行動・宣伝行動にとりくんでいる産別労働組合は自交総連だけです。

現時点においてライドシェア解禁を食い止め、高水準の営収を維持できているのも、自交総連の運動の成果と捉えるべきです。

今春闘でも、毎月の解禁阻止運動をおこない、さらに運賃改定の課題に立ち向かうための組織強化・拡大にとりくみます。自交総連の成果を記した組織拡大リーフレットを作成し、駅タクシープールで付け待ち営業する、乗務員へ配布する運動を展開しています。

今こそ労働組合としての役割を発揮し、全国の仲間と要求前進にむけてたたかうことを呼びかけて総括討論とします。

⑩ 関西・山本雅弘さん

今、世界情勢が変わっていています。私たちも対岸の火事ではなく、これほど平和が生活に大きく影響している年はないと思います。平和運動に力を入れなくてはいけないと思います。また、大阪では3回目の大阪都構想の

住民投票をやろうとしています。過去2回と同様、反対運動にとりくむ必要があります。

今年1月には、自交総連に個人タクシー部会が立ち上がり、大阪地連も個タク部会で奮闘していく所存です。地方部で個人タクシーを増やすことでライドシェアは必要がなくなり、若年層の雇用が増え、IターンやUターンの労働者が増えると思います。

ライドシェアについては、自交総連が自交産業の先頭となって、個タク協議会や全自交と京都で反対の訴えをしています。タクシードライバーの垣根を超えて、世間に訴えていかななくてはいけないと思います。

大阪・関西万博で停電になり、会場に来場者が取り残されるという事故がありました。一般車両は万博内に入れず、家族を迎えに行く車も入れませんでした。バスは止まり、電車も止まり、その時に最後まで皆さんの公共交通の足として働いたのはタクシーなんです。

東日本大震災の時でも、最後まで公共交通の役割を果たしたのはタクシーでした。行政が、そうした公共交通としての位置づけをもっとするように訴えていきたいと思っています。



山本さん

執行部答弁**運動に確信を持ってやっていく**

高城書記長

各地方から、ライドシェア全面解禁阻止、合わせて今回進んでいる運賃改定のとりにくみに奮闘していることが述べられたと思います。

最初に北海道の石岡さんから、この間の宣伝行動も含めたとりくみで、親睦会の会長と意思疎通を重ねて、組合員さんが増えてきているという報告がありました。一人一人の組合員さんとの対話を重ねていくことがこれからも重要です。

次に東京の中野さんから道交法対策委員会の報告がありました。違反や事故の事例を含めた事例共有をしていることと、事故が起きた場合には現場検証に行って、どういった状況で事故が起きたのかということも含めて、その後のとりくみに活かしているとのことでした。免許証を守ることが生活を守ることにつながるということで、非常に重要なことだと思いますし、引きつづき、そこから組合員さんを大きく増やしていくことも必要です。

次に静岡の松田さんからの発言では、運賃改定があって、10%増えたけれ

ども、経営側がスライド賃値下げをしようと言ってきているということでした。賃金を下げるにしても、労使で協議をおこなって確認されないことには下げられませんから、職場の仲間と意思統一することが重要です。できればスト権を明確に一人一人からしっかり取って、いざとなればストライキに打って出るぞという構えを持って交渉にあたっていたいただきたいと思います。

東京の秋山さんから発言がありました。

羽田空港の白タク行為だとか都市型ハイヤーの違法行為について、国会議員さんと共に視察に行つて、そこから運動が大きく広がり、その後に議員さんを通して国との交渉を入れて、何かあればすぐ連絡をしてくださいたいというところまで行き着けたのは、やはり組織の力だと思います。個人タクシー部会で、仲間を多く結集して、また奮闘していただきたいと思います。

福岡の安武さんからは、組織拡大のとりくみというところで、数年前に全労連の総ががり行動をとりくみ、100人の実増を果たした内田常執を、組織拡大専従オルグして送り出していただいたということで、福岡からもエールを貰ったと思っています。

長崎の松永さんからは、経営側の運賃改定に関わる姿勢について、運輸局に出向いて、その問題点を追求してきているということを知っています。合わせてそういった交渉に、本部からも入っていただきたいという要請がありました。要請いただければ対応していきたいなと思っています。

鹿児島島の杉原さんからは、査定評価でカットや罰則があり、車内カメラで見て判断していると発言がありました。車内カメラの運用については、改めて点検し、自由に管理職が見れるような形を取らせないようなとりくみが必要だと思います。

東北の齋藤さんから、仙台の宮城タクシーが廃業されたと発言がありました。東北は日々タクシー会社が廃業がつづいています。そういったなかで、今回運賃改定が仙台でもおこわれるということで、迎車の固定料金を経営側がいただくという会社が出てきています。国交省は、このところ何を言っても労使の問題で逃げる回答をします。それについては、3月5日の中央行動で、姿勢を正していかなければならないと思っています。

東京の坪倉さん。音声を流すスピーカー宣伝を日々おこなってきたということで、外に出て訴えているのは確かに自交総連だけだと思います。

今後も運動に確信を持ってやっていくべきだと思いますし、自交総連が運動を弱めたら、ライドシェアが入ってきてしまうというぐらいの意識を持って、全面解禁阻止のとりくみ強化をしていきたいというふうに思います。

関西の山本さんからは世界情勢につて述べられました。平和運動に力を入れていくことは、皆さんと共有していきたいと思っています。

そうしたことを訴えまして、私の皆さんの討論に対してのまとめとさせていただきます。いただければと思います。

専従オルグ
就任あいさつ

組織拡大は握って離してはならない課題



内田専従オルグ

この度、中央委員会で組織拡大専従オルグに任命された福岡地連の内田です。

自交総連は組織減少に歯止めがかからず、組織拡大は待ったなしの状態です。自交労働者の賃金、労働条件が低下してきたことにより、次代の担い手不足を加速させたことが大きな要因です。

業界では、全国的な運賃改定に伴い、スライド賃下げを目論む事業者があり、断固として阻止する闘いが必要です。私たちを取り巻く情勢のなかで要求を実現するためには、組織拡大は握って離してはならない課題です。

ライドシェア阻止、賃下げ阻止をたたかい抜くために、自交総連組織拡大オルグに奮闘することを決意いたします。